

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福島県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	伊達郡保原町立保原小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	4	4	3	2	26	37
児童数	131	112	128	140	132	114	8	765	

研究の概要

1. 研究主題

豊かなかわりの中で、自らの学びをひらく子どもの育成
- 自ら学び、ともに高めあう個別化・個性化教育の実践 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～4年 総合的な学習の時間(生活科)を中心した他教科・多領域との関連を図った大単元構想
学習に対して受動的であるという本校の児童の実態から、基礎・基本の定着と児童の主体的・体験的な学習の効果的な関連を図った学習構想の必要性があると考えたため。本校のこれまでの取り組み(地域の人材・環境を生かした教育活動)から。

5・6年 算数科
該当学年において、算数科に対する興味・関心や習熟の程度の個人差が大きいという児童の実態から。
系統性が明確であるという教科の特性から、既習事項を生かした問題解決的学習を展開することで仮説にせまることができると考えたため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

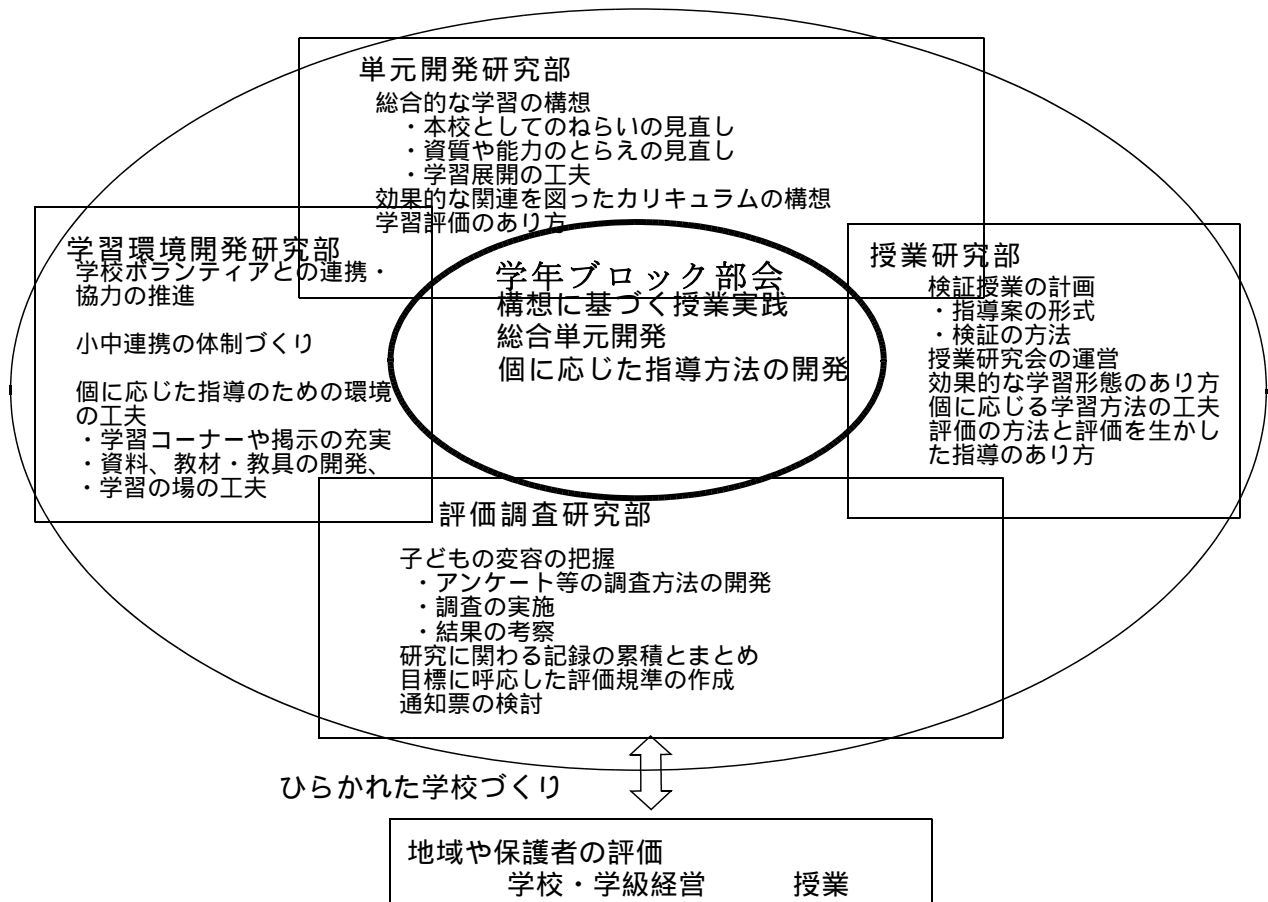
テーマ
豊かなかわりの中で、自らの学びをひらく子どもの育成
- 自ら学び、ともに高めあう個別化・個性化教育の実践 -

研究の仮説
「学びを支える基礎・基本」「教科・領域における基礎・基本」をもとに、自ら学び、ともに高めあう学習活動へ展開することができるよう、次の手だてを工夫すれば、ひらかれた学びを創造することができるであろう。
子ども一人ひとりへの基礎・基本の確実な定着を図る。
児童の必要感に根ざした課題意識に基づき、習得した「基礎・基本」が課題追求・解決に活用されるような学習過程・単元構成を計画的・意図的に設定する。
他(人・もの・こと)との主体的なかわりを支える支援と交流の場づくりを工夫する。

研究内容・方法
「生きる力」の素地を把握するためのアンケートの作成と実施・分析
「確かな学力」育成のための単元構想・授業構成の確立(指導案の形式・単元の構想)
・学習の前提や基盤となる「学びを支える基礎・基本」の育成
・児童の実態と学習の系統性を基盤とした「わかる・できる授業」の創造
・児童の主体性、課題意識を基盤とした学びの「持続」「連続」を保証する学習展開
構想に基づく授業実践
・学年2回の検証授業の実施

平成 16 年度	<p>テーマ 豊かなかかわりの中で、自らの学びをひらく子どもの育成 - 自ら学び、ともに高めあう個別化・個性化教育の実践 -</p>
	<p>研究の仮説 「学びを支える基礎・基本」「教科・領域における基礎・基本」をもとに、自ら学び、ともに高めあう学習活動へ展開することができるよう、次の手だてを工夫すれば、ひらかれた学びを創造することができるであろう。 子ども一人ひとりへの基礎・基本の確実な定着を図る。 児童の必要感に根ざした課題意識に基づき、習得した「基礎・基本」が課題追求・解決に活用されるような学習過程・単元構成を計画的・意図的に設定する。 他（人・もの・こと）との主体的なかかわりを支える支援と交流の場づくりを工夫する。</p> <p>研究内容・方法 学びをひらく子どもを育てる学習の構想・実践 ・学習の前提や基盤となる力の育成（「身につける」） ・個に応じた指導方法・指導体制の工夫（「のばす」） ・基礎・基本を活用・実践・応用する体験的・問題解決学習の組織（「ひらく」） ・自己評価や相互評価の工夫 「かかわり」のある学習構想の工夫 ・話し合いや互いのよさに気づく場の工夫 ・G TやS Tとの連携・協力を図った授業</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本年度の学力検査については、報告書提出時点で集計結果が届いていないため、記載することができなかった。

児童の変容

算数科において習熟度別指導や課題別指導を実施することにより、一人ひとりの児童に応じたきめ細かな支援や興味・関心に応じた学習を行うことができるようになり、基礎・基本を身につけるとともに、学習に対して意欲的に取り組む児童が増えてきた。

前提テストや事前テスト、アンケート調査をもとに、児童の実態をとらえるとともに、単元の系統性、単元の指導目標から一人ひとりのつまずきや児童の思考の広がりを明確にして単元を構成することにより、児童の課題意識に対応した十分な体験活動、追求活動を保証することができ、意欲を持ち、主体的に問題解決する児童の姿が多く見られるようになってきた。

教師の変容

学習構想において、「身につける」「のびる」「ひらく」を3段階に分けたことで、教師は「基礎・基本」をどこで、どのように児童に培っていくかを意識して学習を構想したり授業をしたりすることができるようになってきた。

評価規準や「達成基準」を明確にして指導することにより、児童一人ひとりをとらえて指導しようとすることで、個に応じた指導へとつながった。

2. 今後の課題

ともに高め合う児童の育成においては、お互いの考えや意見のよさに気づくために、話し合う力や伝え合う力、話を聞く力を育てるための指導の工夫が必要である。

個に応じた指導を展開するために、習熟度別学習や課題別学習、GTとの連携協力を図った授業を工夫してきたが、そのあり方については教師間での共通理解と授業構想、実践力の資質向上に努めていかなければならない。

教科・領域の関連を図った単元構想にもとづく学習を計画・実践する場合、単なる活動に終わってしまわないように、相互に関連する教科・領域における指導目標やねらいを明確にした授業を構想・実践することが大切である。そのためには本校における教科・領域の指導の重点事項を明確にし、年間指導計画の見直しと改善が必要。

学力等把握のための学校としての取組

生きる力のアンケート調査（本校作成）の実施	4月・2月実施
知能検査の実施（2・4・6年）	5月実施
学力検査（NRT）の実施（全学年）	1月末実施
単元ごとの事前・前提テスト	

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 公開授業研究会 実施

日時；H15年7月16日（水）10：20～12：00
場所；保原小学校
対象；町内小中学校
目的；授業研究

2. 公開授業研究会 実施

日時；H15年10月8日（水）13：30～
場所；保原小学校
対象；伊達管内小中学校
目的；授業研究

3. 公開授業研究会 実施（予定）

日時；H16年2月17日（火）13：00～
場所；保原小学校
対象；県北域内小中学校・県内各フロンティアスクール
目的；授業研究

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | |
|---------------------|--|---|--|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | |
| | <input type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 25学級 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導
一部教科担任制 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導
<input checked="" type="checkbox"/> その他 | |
| | 国語
生活
体育 | 社会
音楽
<input checked="" type="checkbox"/> その他 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数
図画工作 |
| 【指導法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | |